

第3回運営推進委員会 議事録



■日時： 2013年2月18日（月）13時30分～17時
2月19日（火）10時～12時

■場所： 愛媛大学 工学部本館3階 会議室

■出席： 山梨大学 佐藤 眞久 (工学部基礎教育センター長・教授)
滝口 晴生 (教育人間科学部・教授)
成田 雅博 (教育人間科学部教育実践総合センター・准教授)
奥村 圭子 (留学生センター・教授)
日永 龍彦 (大学教育研究開発センター・教授)
伊藤 亜希子 (大学教育研究開発センター・助教)
橘田 昇 (学生支援部・教務課長)
奥原 利昌 (総合情報戦略機構・係長)
佐賀大学 穂屋下 茂 (全学教育機構・教授)
古賀 崇朗 (教務課・教務補佐員)
久家 淳子 (教務課・教務補佐員)
千歳科学技術大学 小松川 浩 (メディア教育センター長・キャリアセンター長・教授)
石田 雪也 (総合光科学部 専任講師)
山中 明生 (大学教育センター長・光システム学科長・教授)
大西 哲也 (教育連携推進課長)

北星学園大学	中嶋 輝明	(文学部・教授・総合情報センター長)
	松浦 年男	(文学部・専任講師)
	金子 大輔	(経済学部・准教授)
	野原 克仁	(経済学部・専任講師)
	高野 正明	(情報システム課・課長)
創価大学	馬場 善久	(副学長・常任理事)
	望月 雅光	(経営学部)
	山崎 めぐみ	(学士課程教育機構)
	山下 由美子	(学士課程教育機構)
	清水 強志	(学士課程教育機構)
	斉藤 幸一	(教育・学習活動支援)
	畑 由美子	(教育・学習活動支援)
	飛田 昌彦	(学事部)
	山岸 啓一	(学士課程教育機構)
	羽賀 文湖	(キャリア就職支援課)
愛知大学	渡辺 和敏	(地域政策学部学部長)・
	尼崎 光洋	(地域政策学部・助教)
	駒木 伸比古	(地域政策学部・助教)
	中崎 温子	(地域政策学部・教授)
	湯川 治敏	(地域政策学部・准教授)
桜の聖母短期大学	藤田 大介	(豊橋教務課)
	加藤 竜哉	(進路部・部長)
愛媛大学	佐藤 信二	(事務部・事務長代理)
	松本 長彦	(教育・学生支援機構長)
	田中 寿郎	(教育・学生支援機構共通教育センター・センター長)
	平田 浩一	(教育・学生支援機構共通教育センター・副センター長)
	庭崎 隆	(教育・学生支援機構共通教育センター・副センター長)
	藤岡 克則	(教育・学生支援機構英語教育センター・副センター長)
	平尾 智隆	(教育・学生支援機構学生支援センター・講師)
	山崎 哲司	(教育・学生支援機構教職総合センター・センター長)
	小林 直人	(教育・学生支援機構教育企画室・室長)
	秋山 英治	(法文学部人文学科・准教授)
	仲道 雅輝	(先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンター・助教)
	池住 元秀	(先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンター・ 特定研究員)
	米澤 慎二	(教育学生支援部長)
	平岡 尚徳	(研究支援部研究支援課・特定専門職員)
	村上 鋼次	(研究支援部総合情報メディアセンター事務課・課長)
	中村 勝	(研究支援部総合情報メディアセンター事務課・技術専門職員)
	瀧本 笑子	(研究支援部総合情報メディアセンター事務課・SL)
三神 早耶	(研究支援部総合情報メディアセンター事務課・技術補佐員)	

株式会社リアセック	近藤 賢	(取締役 CEO)
	田辺 明博	(執行役員)
	笠井 恵美	(大学間連携事業担当)
日本工業大学	田中 佳子	(学修支援センター・准教授 (日本リメディアル学会))

(60名)

■議事内容:

1. 事務局報告 (千歳科学技術大学 小松川 浩)



① 平成 25 年度事業計画・予算について

各大学へのヒヤリングを元に、下記のような方向をまとめている。

まず、来年度は、初年次系の学生が主体的に学んでいくための教育内容をきちんと整備していくというのが大きな枠組みになる。その上で、プレースメントテストと到達度テストをはさみながら、eラーニングの教材を整備していくことが重要になる。

特に来年度は、どういった内容を学生に教授していくのか、例えばシラバス的な内容や到達目標などをWGで検討し取りまとめていく必要がある。この辺の取りまとめについては、これまでかなり実績のある愛媛大学にお願いしご検討をいただければと考えている。

また、教材を整備していくという大きなテーマについては、各大学で作ることのできるものは作り整備をしていくことになる。各大学の取りまとめについては、佐賀大学にお願いをさせていただきたい。

以上のような平成 25 年度の大枠の考え方に則り、予算についてもメリハリをつけ調整していきたい。

事務局としては、具体的には運営推進会議をコンパクトにしていく方向を提案させていただきたい。

運営推進会議でWGが同時に動く場合は、これはこれで重要な意義があると考え、大所帯になるのはしかたがないが、WGを伴わない推進会議は、例えば、年度末の佐賀大学の集まりは成果発表会に主眼におき、コンパクトな運営を考えていきたい。

なお、来年度計画書調書本文において、いくつかの大学よりコメントをいただき「FD・SDセミナーを適宜開催する。」の変更追加を行った。特に運営評議会があり、皆様の参加が予定される福島の大会で、FD・SDセミナーを開催させていただくことを考えている。

② 本年度中に実施すべき内容の確認

本年度中に実施すべき内容は、主に以下の2つである。

- プレースメントテストの内容の確認 …今日の委員会で取組、終了予定。
- 到達度テスト (入学後1年で測るテスト)、シラバスの方向性・大枠の内容 …大枠として1年後のゴールを目指して学習を進めていく必要がある。そのため、1年後の到達点やそこへの方向性、シラバスについて、今回および次回の運営推進委員会までに明文化をしていきたい。明文化したものはHPに出していきたいと事務局では考えている。

③ プレースメントテスト結果情報の共有方法について

プレースメントテストのデータを共有し、学生の学びの質の向上に活用していくことは、今回の取組

の一つの大きなテーマになっている。データをどこまでどのような風に活用するかについては、前回、運営推進委員会でワーキンググループ的な位置づけで共有の上、その結果を各大学で持ち帰り、運営評議会レベルの担当理事も含めて検討し、最終案を作りましょうという合意を得ている。

4月以降の推進会議で議論をできるコアのメンバーを各大学で出していただき、4月の段階で揃うデータも見ていただき議論をしていく方向性を考えている。

- ・現状、先生方のご協力のおかげで Moodle にすべてのテストが上がっている。
- ・スケジュールとしては、4月以降5月12日までに試験の実施・採点を行い、5月17日に個票資料を作成し、その後配布等を行い、6月には何らかの結果が出ている予定である。
- ・各大学に、3月22日位までに、eラーニング（Solomon）を利用するIDの発行を行う予定である。IDは学籍番号でなくても構わない。事務局で扱うデータはIDと回答状況のみである。IDと個人情報がかぶるよう各大学で対応をお願いしたい。
- ・問題用紙・解答用紙のあり方については、各科目で検討をしていただきたい。
- ・テストの結果は個票の形でお戻りする。数学以外は1問1答形式である。各科目で個票のあり方、どのような内容をどのようなロジックで出すのかを検討していただき、できれば2月中に返答をいただきたい。また、学修観アンケート結果については、本学（千歳科学技術大学）で、配布資料の見本に仮に入れている本学の内容の用語解説を学生に伝えた際、「わからない」という声が上がったことがあった。個票右半分の学修観アンケート結果の内容についてはご議論をいただきお返事をいただければと思っている。
- ・個票にもとづきeラーニングで学ぶ場合の、科目単元とeラーニングコンテンツの対応表および学修観アンケート結果の見方については、HPに掲載をしたいと考えている。
- ・今回お出した個票は事務局案である。来年度の推進会議では、幹事会的な場で、順位の表記等を検討することになる。それを待つと、個票を学生に返せるのは6月以降になる。それでは遅すぎるということであれば、いったん出せる形で6月に出して、改めて気になるデータの箇所は検討をするというのではどうか。

準備を進める上で今、返す時期を6月前か後か、決めておきたい。事務局としては5月の段階で各大学に返せる状態になっている予定である。

④ 平成24年度経費の残額について

先日、事務局から各大学に、予算に少し余裕があるので追加の補助金増額のご要望についてお尋ねし、ご要望のあった大学には要求通り増額を行った。文部科学省からは2月下旬に補助金が一括して入金されるので、入金を確認し次第、各大学に配布する予定である。それでも、現時点で50万円くらい浮くような状況である。年度末が近づいていることもあり、最終的に残額が生じた場合は、事務局で責任を持って対応を行うので、取扱いを一任していただきたい。（特に異議なし。承認）

⑤ 平成24年度事業報告書の作成について

- ・今後、各年度事業実施報告書を作成し、記録、および広く他大学等に広報をしていく主旨等において、平成24年度も事業実施報告書を作成したい。文部科学省への報告という形態のみならず、他大学および、構成校も学内に配布し周知していく一助となるよう、構成校にもヒヤリングしながら、内容を進めていきたい。
- ・仕様としては、下記の予定である。

- ・ A4版、カラー、約 100 ページ (想定、調整あり)
 - ・ 内容 取組全体像、平成 24 年度取組概要、各 WG による取組、資料集 等
 - ・ 印刷冊数 4,000 冊 各大学分 300 冊×8 大学=2,400 冊
全国大学宛 (776 校) + 短大宛 (381 校) = 発送 1,157 冊
残り 443 冊=事務局保管 (予備、関係学協会発送用)
 - ・ 納品・発送 3 月 29 日 (金)
- ・ 3 月中に作成していくということで、進行中の事業があるなか、日程も限られており、多々お手数をおかけすることになるが、各大学への執筆のご協力をお願いしたい。具体的には、各校の取組内容・大学紹介、各 WG の事業実績報告の部分執筆へのご協力となる。各 WG 事業実績報告については、調書資料「平成 24 年度 実績報告様式 (取組)」と内容を合せながら、こちらからフォーマットをお送りし記入をしていただく形で執筆をいただくことを予定している (フォーマット記入締切 3 月 8 日)。

2. 各 WG からの報告

① 到達度 WG (山梨大学)



- ・ 前回の運営推進委員会では下記を議論した。
- ・ スケジュール確認… 1 月末作問終了、2 月中旬 e ラーニング化、
2 月下旬～3 月中旬問題のチェック (校正、時間配分等) 修正
- ・ 問題作成要領の議論… Solomon と Moodle 両対応形式とする。Solomon の仕様の確認

- ・ プレイスメントテストの実施について
- ・ 到達度テストの実施と学修支援プログラム・学修教材の整備について
- ・ 平成 25 年度はプレイスメントテストの後に、何らかの学習の動機づけを図り、学生への主体的な学びを促す。そして後半に到達度テストを実施して、自らの学びを振り返らせ、主体的な学びの重要性を気づかせる。基本的には学習診断レポート (紙や e ポートフォリオ) を活用し、振り返りを促す。
- ・ 今日の各科目別議論において、確認・精査したい点は以下となる。
 - ・ プレイスメントテストについて
 - …ウェブ上で行う場合の時間配分
 - マークシートで行う場合の問題形式 (用紙見本資料あり)
 - 各大学実施における注意・確認事項
 - 診断項目とコメントの作成、学び (シラバス) に導くための教材の検討
 - 各大学の実施体制の整備
 - 6 月の実施結果の検討について
- ・ 大学ごとの、ID の付与および、学生への「判定結果」と「推奨教材」の通知方法の検討
- ・ 平成 25 年度到達度テスト作成に向けての準備

- … (A) 各教科で達成度テストの考え方を検討
 年に一度学習の成果を測り学力を測定し質保証を行う教科（数学）
 繰り返しテストと教材学習を行き来する教科（英語、情報、日本語）、
 その場合、学力の測定と質保証をどのように行うか検討
 ※Solomon は現在 1 回受験設定であるが、システム上は繰り返し受験可能な設定
 とすることは可能である。初年度でエラーが発生する可能性も考えると、複数
 回受験設計も考えられる。ただし、到達度テストの趣旨からすると、年度末に
 1 回、到達度を測るテストを受ける形がのぞましいと考えられる。
- (B) 大学の授業とは別の視点で見た能力（論理性・表現力・英語運用力・情報活用力）
 などの要素をどのように取り込むかを検討
- (C) 関連した学習教材のイメージの共有
 習得できていない学生向けの Web 教材のイメージを検討し意識あわせ
- (D) おおまかな作成スケジュールの確認
- (E) 達成度テストと関連する教材の作成
 Solomon で導く教材が無い場合は、教材作成の検討
 教材は Moodle と Solomon クラウドの両方で原則コンテンツ化

② 共通基盤教育 WG（愛媛大学）



- ・到達度テストの実施形態について調査を行った。一部未回答の大学を除き、数学・英語・情報は各 1,570 名、日本語 1,620 名、学修観 1,740 名に実施予定である。

- ・共通基盤教育のコンテンツの作成については、シラバス WG 等と連携をとりながらこれから、どのようなものを作っていくか等の取りまとめを行っていききたい。

③ 学習教材 WG（佐賀大学）



ている。

- ・佐賀大学のほうでは現在、英語教材の作成を進めている。具体的には、マクミランの教科書（「プリズム」9 冊、TOEIC に準じている）の電子データを手入れし、試作を始めているところである。試作は、マクミランの教科書から電子データを介して e ラーニングの教材化するステップで行っている。教材の電子書籍化についてはこれからの大きな課題と思っ

・ほかに、平成 25 年度に向かって何をやるか、4 年間で何を作れるかについて詰めていく作業が今後あるかと考えている。

④ ポートフォリオ WG（創価大学）



・現在進めているのは、佐賀大学、千歳科学技術大学、創価大学の3大学のポートフォリオシステムをクラウドにあげて閲覧できるようにすることである。できれば3月までにあげて、各システムを見ながらノウハウの共有を行っていければと考えている。

・また、本日、創価大学でキャリアを担当している職員が来ているので、キャリアのポートフォリオについてご質問等があれば、随時お声がけをい

ただければと思っている。

- ・ルーブリックについては、全米カレッジ大学協会のバリュー・ルーブリックの翻訳作業を行い、第2案くらいまで出来ている。著作権は今後確認する予定だが、ウェブ上に共有掲載できると、検討を進めていく上で参照できるひとつ大きな成果物になるかと思っている。
- ・卒業生調査については、3大学でぎりぎりできるような状況で準備が進んでいる。いろいろな大学の1万人規模のデータを持つ三菱総研に相談中である（集計結果は8大学で有料利用可能）。調査項目のウェブデータ化も可能との返事もらっている。フリーのアンケートシステムで年度末までに行うことも検討中である。

⑤ 特色ある教育 WG（北星学園大学）



・前回の運営推進委員会でお願した、各大学で行われていることについての調査依頼に現在、2校ほど回答があった。回答結果は Moodle にアップしているので、回答方法や各大学の特色ある教育の内容について参考にしていただき、2月中の締切の調査に何卒早めのご提出をお願いしたい。

⑥ 学修観 WG（桜の聖母短期大学）



・予算が許す範囲 PROG の試行を行い、1年次および2年次の終わりのデータが多く出てくるようであるので、その辺のデータを整理しながら、皆さんとデータ結果の共有・検討をしていきたい。

・今日のWG検討では、さきほどの到達度テスト個票の右側部分の記述について、もやっとしてい

る部分と日本工業大学の田中先生のデータとの関係の整理、議論を始めていきたい。

⑦ シラバス WG(愛知大学)



- ・現状、本事業ではプレースメントテスト後の実施内容に関わる到達度テストを議論している段階であるため、シラバスについてはまだほとんど進んでいない状況である。
- ・今後は、プレースメントテスト後にどのような方角の到達を目指すのかを各科目で議論していただいて、可能であれば、次の運営委員会の会議までに素案をまとめてシラバス WG の成果としていけるよう進めていきたい。具体的には、3月初旬を目処に各 WG あて、到達目標（ルーブリックの設定でも可）や、どの学習教材をどのように利用するか（不足する学習教材は何か）といったことについての回答をお願いする予定である。

3. 到達度 WG に関する科目別打ち合わせ 報告

① 日本語（愛知大学 湯川先生 ご報告）



●プレースメントテスト結果シートについて

- ・プレースメントテストでは、日本語を4分野に分けている。
- ・漢字分野（25問）、語彙分野（ことわざ・成句 計50問）、文法・敬語分野（10問）、短文読解分野（15問）で、計100問。1問1点で合計100点となる。
- ・各分野において、点数によってレベルを分け

コメントを返す。

25問の漢字は、25点満点を3レベルに分け、23問以上正解の23点以上の場合は合格、15～22問正解はもうちょっと頑張りましょう、正解が14問以下は基礎的知識が足りないとする。語彙も3レベルに分け、1番上が40問以上正解、真ん中のレベルが30～39問正解、29問以下の場合は基礎的なレベルからやりなおしましょう、となる。

文法・敬語と短文読解は上下2分野に分け、10問中8問以上正解、または15問中12問以上正解の場合は、高校までのレベルに到達しているとする。

- ・4分野全てで合格となった場合は、以下のコメントを表示する。

「あなたの日本語力の知識は大学での学習を行うのに十分なレベルに達しています。そこでさらに日本語力を高めるための教材に取り組んで専門的な学習に備えましょう」

- 1分野でも不足点がある場合は、以下のコメントを表示する。

「あなたの＜合格分野の項目名入る 例 漢字の知識＞は、大学での学習を行うのに十分なレベルに達しています。そこでさらに日本語力を高めるための教材に取り組んで専門的な学習に備えましょう。一方、＜不合格の項目名入る＞は必要なレベルに達していないので、少し基礎的な学習が必要です。」

不合格の場合には、

「<不合格の項目名入る>は必要なレベルに達していないので、基礎的な学習が必要です。」とする。

●1年生の到達目標について

- ・Solomon での日本語の学習教材は、1年生の到達目標としては、4分野（細かくいうと7分野）でレベルの1～10まで用意されている。プレースメントテストは高校習得レベルを測るため、レベル1～3までを高校生が習得しておくレベルとしている。プレースメントテストですべて合格している場合は、レベル4～7を1年かけて学習していく。分野別に達していないところは、達している合格をしている分野はレベル4からスタート。中間の少し足りない分野はレベル2からやり直し。基礎的なものが足りない分野はレベル1からスタートという設定にした。
- ・2段階のレベルの場合は、合格の場合はレベルの4から学習。レベルに達していない場合はレベル1からやり直す。
- ・シラバスとしては2種類、高校レベルに達していない場合のシラバスと、達している場合のレベルの4からのシラバスを考えている。

●その他

- ・今後は、推進委員会ごとにWGをするのではなく、必要に応じてウェブ会議を実施することを確認した。

② 英語（佐賀大学 穂屋下先生 ご報告）



●プレースメントテストについて

・プレースメントテストについては、今、提示をしている問題が難しいので、山梨大学 滝口先生、愛媛大学 藤岡先生を中心に、もう少し易しいものに修正したいという話にあった。問題数は50問、選択肢4択の形は変えず、2月27日までには修正を終えたい。

- ・問題の選択は番号を利用するようにする。

- ・コメントの挿入欄は、基本的には単語、イディオム、文法、内容理解の4分野を3～5段階でメッセージを作りたい。日本語と同じようなメッセージになるのではないかと思う。分野ごとに、状況を知らせて、最後に全体をみて十分かどうか判断し、あまり傷つけないような方法でメッセージする。メール会議で2月27日までに作成して事務局に提出を予定している。
- ・プレースメントテストは、クラス分けに使用している大学もあるので、必ずしも今回共通のプレースメントテストはクラス分けに使わなくてもよいと考える。ただ、データの的には揃えたいので、必ずプレースメントテストを一部では実施していただきたい。

●学習教材について

- ・時間を割いて議論をしたのは、学習教材であり、マクミランのプリズムシリーズ（セカンドエディション）がTOEICの300～550点レベルで50点おきに6冊出ており、それをeラーニング教材で学習できる環境を作りたい。6冊中4冊は平成25年度後期から利用できる状況にもっていききたい。
- ・到達度テストのレベルは、プリズムのシリーズに準じて作ったほうがよいという意見が出された。その場合、マクミランのプリズムシリーズを教科書・参考書として使っていただくと、TOEICの点数が高めに出るか

もしれない。これは学生の自信をつけるという意味でよいかと思われる。TOEIC の点数を伸ばすためには、学習教材を揃えておくのは重要かと思われる。

- ・今いちばん易しいものを 1 冊作っている。それが良ければ、それに準じた形で残りの 5 冊も作る。必ず使ってほしいというものではないが、予習復習等で使っていただくと役立つのではないかと。
- ・基本的には無料で使えるので、ぜひ使っていただきたい。
- ・使っていただいて問題点が出てきたら修正し、平成 26 年度からかなりいいものになっていけばいいかなと思っています。
- ・マクミランの教科書だけで作った問題では限りがあるので、必要な問題は追加していきたい。すでにある問題を足していくこともできる。多くの問題を作り選択していく事例を示していきたい。
- ・使い方は、基本的には、Moodle で見ていくことができるが、学生が利用する場合は、各大学のクラウド、Moodle にインストールし利用することになる。
- ・平成 24 年度中に、TOEIC の 2 つのサンプルを作成予定である。精度を高めるためにも、使いたい大学があれば使っていただき、問題点を指摘していただければ、と思っている。

③ 数学 (山梨大学 佐藤先生 ご報告)



●プレイズメントテストの内容確認について

- ・3月にクラウド上のテスト結果を確認予定である。
- ・レベルと時間設定は、理系1と文系は30分、理系2は45分ということにした。文系の場合、問題数は少ないが、数学が不得手ということもあり、時間設定は理系1と同じにした。
- ・実施方法は、マークシートやウェブ、紙等、どのようなやり方にしても必ず解答用紙に記入

してから、試験終了後にウェブ入力等を行うことにしたい(途中でシステムが止まってしまうこともありうるので、入れたものがなくなってしまうことがないように)。

- ・理系2について、必要であれば事務局のほうからお送りする。手入力よりスキャナーで読み取るほうがよい。
- ・評価シートのコメントは、数学は、三角関数等の項目ごとに問題設定をしているので、正解数の表示をまず行い、コメントについては、問1、問2、問3に、数I、数II B、数III Cという形にし、それに合わせてコメントを作成し載せたい。コメントは、日本語と同様、3つのレベルで分けてコメントする。ただし、3分の1以下しか出来ていない人は相当数出来ていないので、頑張りましょうとのコメントだけとする。3分の1以上出来ている人は、どこが出来ていなかったかのコメントをする対応を行いたい。

●到達度テストについて

- ・到達目標を作ることには、いろいろな要望があり、議論時間も限られていて大変であった。最初は総合問題として、横断的な形を想定し議論したが、なかなかそうもいかないことになってきた。
- ・分け方は、プレイズメントテスト同様に、理系1、理系2、文系という分け方で考えたが、標準化されている理系は、各大学でブロックの中から使用するものを選ぶ形で作ることができるが、問題は標準化されていない文系である。文系では、色々な授業で色々な数学を使っており、行っている授業に合わせたテストとするためには、各学部で行われている授業の資料を集めて検討をしていく必要があると考えている。この辺、

時間がかかると思っている。

- ・発想を変えて、標準化が出来ていない文系の場合は、到達度テストを日本全国の文系の標準化にしてしまっ
てはどうか、という案も出た。

④ 情報（北星学園大学 金子先生 ご報告）



●プレイズメントテストについて

- ・情報については、1カ月ほど前に打ち合わせを行っており、その時の結果を交えながら報告をしたい。
- ・特に情報については、外部協力の先生方がいらっしゃる。具体的には、教育システム情報学会、日本情報化教育学会の先生方、九州工業大学の西野先生や、帝塚山大学の高橋先生であり、その先生方にアドバイスをいただきながら、プレイズメントテストの作成が終わった。紙でも実施でき

るように、問題文の並び方、選択肢の並び方、すべてを考えて決定をしている。

- ・情報のプレイズメントテストについては、学会で作成したものが大きく3つの目標に分かれている。ひとつは、情報活用の実践力という目標である。これは実践的、応用的な学習領域であり、情報の多義性や情報の加工発信といった内容が含まれている。二つ目の分野としては、情報の科学的理解を目標にしている分野で、これは系統的・基礎的な学習領域である。例えば情報をデジタル化するときの話や情報機器に関する事、あるいは情報通信ネットワークやセキュリティの技術といった、どちらかというとならざる理系的な分野である。三つ目は、情報社会に参画する態度を目標としたところで、社会的なもの、総合的な学習領域を対象としており、情報社会の特質、情報社会のコミュニケーション、セキュリティ、知的財産権、そういった内容のものが含まれている。
- ・このように大きく3つに情報をわけてテストを行う。テストは全部で40問、30分、5択問題で、選択肢の5番目はすべて「わからない」となっている。これは、あてずっぽうで答えられるのを防ぐためである。この辺は他の科目と方向性が違うところなので、もしご意見があればぜひ伺いたい。
- ・問題数は、情報活用の実践力は12問、情報の科学的理解は15問、情報社会に参画する態度は13問、計40問となっている。
- ・実施方法は、なんでもOK。マークシート用問題も作成済みである。ウェブでも可能である。ただし、Moodle等での選択肢をシャッフルする機能は、使わないで置くということになった（「わからない」の出現場所が変わってくるため）。並び順もこちらの指定した方法で行いたい。
- ・実施するときに、紙に書くことは、各大学にお願いしようということになった。北星学園大学ですと、休み時間で行う場合もあり、細切れの時間で行えるような実施方法があればいいと思っている。
- ・返却シートのコメントは、全体の成績にもとづくコメントと、3分野の中で得点率が低いものについて、そこを中心に学習しましょうというコメントを出す予定である。

●到達度テストについて

- ・内容は、大学での学習内容を含んだ形で作成したいが、そもそも大学でなにを教えているかの共通認識が出来ていない。大学での学問の体系が違う。そのため、まず8大学で行われている情報のシラバスを今月集め、共有・検討する。3分野に合わせてピックアップしてみて検討をしたい。その上で、まずは、8大学で使えるものを作成したい。

- ・シラバスは、どのような到達度テストを作るかによって変わる。情報の3分野に応じたシラバスを作成することになる。

●教材について

- ・ほかの科目と違うのは、今すぐに利用できる教材が、情報にはないということである。業者の教材を使うということは予算上難しい。外部協力の先生方からは、特定の会社の教科書を使うのはどうかという指摘があったが、現実的には自分たちで作るしかない。自分たちでゼロから作るとすれば、やりやすいところで問題のデータベースを作ることであろうと、今、急ピッチで問題のデータベースを作成中である。これを3月までにもう少し増やしていこうとしている。
- ・最終的に情報の目標は 教材の充実ということになるだろうと考えている。新しいカリキュラムで学生が入ってくるまでには3年の猶予がある。3年後を目標にして、外部協力の先生方のアドバイスも得ながら、問題を作っていきたい。

⑤ 学修観 (桜の聖母短期大学 加藤先生 ご報告)



●プレイズメントテストについて

- ・前回の会議で学修観において重要であった点の、自分で自分をみつめる、気づく、の共通認識を再確認。シラバスと到達目標がある他の科目と違う点を再確認した。
- ・個票の右側についてのアイデアを議論した。わかりやすく枠を作ることは重要。

案をまとめていきたい。

- ・レーダーチャート下のコメントは、1～4年生の年次ですべて同じなので、いずれ年次によってコメントを変更していくのがよいのではないかと考えた。
- ・用語の解説については、田中先生がいろいろ送られている資料等に基づき、8大学のメンバーは学生に説明できるような理解をきちっとする、そのための資料を作成していきたい。
- ・PROGの進捗状況について、実施7大学の結果を整理・確認した。マークシートを返送していない大学は2月末に、実施した実数の報告をリアセックの問い合わせに対して行っていただきたい。
- ・結果については、出ている大学について3月の会議で報告をしたい。
- ・他に、過去の国立等のデータの共有を行った。創価大学の過去の経験についてお話をいただいた。
- ・次年度は、山梨大学以外はPROGを考えていないので、PROGと田中先生の学修観のアンケートをどのように考えていけばいいのか、そもそもそれをポートフォリオでつないで、各年度で自分の変化知っていく、それを知って、どうするか、については時間切れになった。
- ・言葉についても、「学修観アンケート結果」ではわかりにくいので、学生にわかる「私がわかる私」「私の特性」など、言葉を置き換えてわかるところからやっていこうという話となった。
- ・いずれはキャリアセンターやキャリア支援室等で進路に関わる先生方と、この個票をもとにカウンセリングや指導していく道筋、ルール、叩き台ができてくるといいのかなと思っている。

●3月までをお願いしたい内容について

- ・プレイスメントテストのeラーニング化については、千歳科学技術大学と佐賀大学で順次行っている。情報に関しては1度終わっている。この後、学修観、日本語、英語、数学のコンテンツ化にあたり早急にアップするので、各科目間で動作確認をお願いしたい。Solomonでは1度やると2回目できないようになっているので、全員にIDを200くらい用意し、アクセスしていただけるようにする予定である。
- ・先ほどのご発表の科目の内容を、2月27日(水)に石田までメールでいただきたい。その結果を、2月28日(木)に集計し、業者に発注し、画面のレイアウト案をみなさまにフィードバックさせていただき、画面の微調整のうえ、3月末までに完成させていきたい。個票の改良は今年度で終わりではなく、今後も実施していくものであると考えている。
- ・個票に応じて、この項目が出来ていない人はこの單元ですよ、といったその後の学習についての対応やシラバスへの連携を行うことについては、今年度はまとめてHPに掲載していきたい。この点について、次回の委員会でのやりとりを行い、3月に完成させていきたい。
- ・次回の3月の会議では、問題用紙案、解答用紙案を提示できるようにしていきたいので、検討をお願いしたい。

●予算等について

- ・昨日、平成25年度の予算案に赤字が出ているため削減をお願いさせていただいた件について、事務局担当者で打ち合わせを行い、各大学へお願いとご協力をさせていただいた結果、5,800万円の予算におさまることとなった。皆さま、ご協力を有難うございました。
- ・具体的には、佐賀で行う来年3月の推進会議のコンパクト化と、今年12月東京で参加するe-Learning Awards公開フォーラムの参加人数を減らすことと、あとは微調整で予算におさまる形となった。
来年度の方角として、推進会議はスリム化をしていく。ただし、次回6月の北星学園大学でいきなりスリム化するのも支障が出ると思われるので、逆に北星学園大学ではWGの時間を増やすこととし、また、その次、10月の桜の聖母短期大学では運営評議会を開くために、ここまでは本年度の流れとしながら、その後2月山梨大学、3月佐賀大学で会議でのスリム化を行っていきたい。

●今後の日程について

- ・3月1日に行われる統計学会で本事業の取組を山梨大学が発表する予定である。文科系の方でも、実務的にも役立つ学会でご紹介する。
- ・10月の運営評議会(福島)の日程を10月12日(土)午後、運営推進委員会の日程を12日(土)・13日(日)とさせていただきたい。
- ・来年2月の運営推進委員会(山梨)は、2月18日・19日を予定している。

4. 第4回運営推進委員会について

次回は、 2013年3月16日(土)13時30分~17時00分
17日(日)10時00分~12時00分

愛知大学にて行う。

以上

(2013年3月8日

議事録作成 リアセック 笠井)